

夏期轉住の思ひ出

二葉保育園 徳 永 恕

昨年は東京府慈善協會の發意により市内五六の富豪の好意を得て保育事業を經營して居る團體が

相諮り、兒童四十八名、役員十五名を一團として八月十日より千葉縣八幡の海濱に約二週間の轉住を試みました。

この計畫の目的は「身體比較的羸弱なる保育兒童を酷暑の間清涼なる健康地域に移住せしめ健康の増進と心神の轉化向上を圖り、兼ねて兒童保護者をして託兒による便益を得しめんとす」といふのでありました。

兒童等四十七名は年齢に於て（年長は十三歳、年少は四歳）、又體質に於て、各々違ひがありま

す、又中には病的兒童も入つて居りました。而して是等四十七名の兒童の中には既に病氣にかゝつ

てゐるものが、二十二名もありました。之を表記すると次の如くであります。

陳久肋膜炎三 肋膜炎一 氣管枝加兒兼ヘルニヤ一 氣管枝加
答兒兼中耳炎一 心臟瓣膜病一 貧血症四 背椎彎曲症(前彎
症、側彎症)二 腸寄生虫病(蛔虫)二 粉瘤兼ヘルニヤ一 顔面
濕疹一 股ヘルニヤ一 夜尿症一 眼疾二 計二四疾二二名

以上の病的兒童に對しては衛生上其の他に特に注意を拂つて他の健康兒童等と共同生活を營ませました。

此の期間中に於ける病的兒童の状態は概して好果を得たやうであります、たゞ特別な二三の例を除くの外は病症の増悪などはなく、健康状態に恢復し、その多くは營養状態が佳良となり心身共に其の動作が活潑となつたのであります。その他の兒童二十五名は認むべき疾病なく中等又は強健な

兒童であつたのであります。而して是等四十七名の兒童が滯幡中に訴へた病的異常を表記すると次の如くなります。

| 第一週に於ける罹病數 | |
|-------------|----------|
| 炎症痛炎ヤ痛ル | 蟲進汗疾ル病傷疹 |
| 枝 | ニ タ 亢 |
| 膜 | ルンケ 搔 |
| 管 | 耳 ル カ 悸 |
| | フ粉足濕 |
| 肋氣齒中へ腹腹蛔心盜眼 | 外科 |
| 1 | 2 |
| 3 | 1 |
| 1 | 1 |
| 1 | 6 |
| 2 | 1 |
| 1 | 1 |
| 6 | 6 |
| 4 | |
| — | 1 |
| 1 | — |
| — | 1 |
| — | 1 |
| — | — |
| 5 | 1 |
| 1 | |
| 第二週に於ける罹病數 | |

右の表を見ましても分りますやうに第一週より第二週に及ぶに従つて疾病は漸時減少の傾向を示して居ります、第一週の終りから第二週に入らうとする頃下痢患者の増加する傾きがありました

幸に數日ならずして皆全快し、續出者を出しませんでした、滯幡二週間を通じて全く異常を訴へなかつたものは十八名であります、就床治療を要した者は八名で、何れも輕症で數日ならずして全治いたしました、その症は大抵下痢でありました。内科的及び外科的疾患の三名は入院治療を要しましたので東京女子醫學專門學校附屬病院に送つて加療せしめましたところ何れも經過良好で全治退院いたしました。

以上の如く罹病者の數は比較的多數を出しましたが是等は風土の變化並びに生活狀態の急變より受ける一時的の現象であります、第一回の體格検査時と最終の検査時との比較を見れば一般に良結果を得て居ることが分ります。今それを概括的に示しますと

一般營養狀態佳良、身體の諸抵抗力の増進、顏貌の變化、筋肉發育佳良、食慾の増進（病的に食慾の振はざりし者も）、體重増加

でありまして、以上の状態の特に著明に見受けられたものも二三名ありました。

食思の状態は始めに於て一時減少の傾きがありましたが其の後に於ては一般に食欲の亢進を來しました、而して其の常食品は家庭に居た時とあまり距りのないやうに且つ營養を保ち得る程度のもを以てしました。體重の測定は到着の日と第一及び第二週の終りとに於て都合三回施行しました、その結果は一般に増加の傾向を示して居りました。

減少せるもの

二名

増加せるもの

四十一名

最大増加量三五〇匁 最少増加量五〇匁

報告的のお話は大體以上に止めておいて私の感想をお話し致しますと身體の虚弱な子供のためといふならばもつと設備も必要でありましたし、準備も不足であつたと思ひます、個々にはいろいろの利益があつたことは疑ひがありませんが全體

としては所期した程の効果はなかつたやうに思はれます。あの位の仕事をするためにあれだけの勞力と金錢とを費す必要があつたであらうか何うかと思つた位であります。毎日一時に寢て五時に起きて、始終幼児のために氣を配つて居りますので、先生は随分疲れました、而してそれがために有體に言へば感情の衝突などもあつたのであります。

しかしこの時の記念として今に續いてゐてうれしいことは、この時毎晩保母の相談會を開いたのが動機となつて、今でも毎月第四土曜日に昨年八幡に行つた保母は無論のこと、行かれなかつた人々も加つて研究會的、修養會的の集りを催して居ります。めい／＼の幼児から言ふと、この催しのためには弱體質のものが丈夫になつたといふ例は澤山ございました。幼児達はよく思ひ出しては海のことを話して居ります。こんな風に僅かばかりの間ではありましたが身體的には非常に效能があつたのであります、けれども各園が連合して合宿して

斯る催しを行ふといふことは私にはあまり賛成出来ません。贅澤なことを言ふことが許されるならば二葉なら二葉だけの幼児のために特に別荘が設けられてゐたならば甚麼によからうと思ひます。

昨年催しましたやうな轉住ならば滞在期間はあれで充分であります、否長すぎた位です。一體、體質本位から言ふならばこの期間は長ければ長い程いゝのであります、教育上からは何うかと思ふ點がないではありませんでした。例へば私の方では食事の前にお祈りを致しますが他の園では行ひません、それで幼児は不審がつて、何うして他の園ではお祈りをしないかなどと疑ひを起します。こんな風に各園がそれと方針を異にして居りますので誠に都合がわるいのであります。

保母一人々々から言へば、いろ／＼苦しかつただけに得る所も多かつたやうであります。保母と幼児との間の親密さを増す點に於ては非常な效能がありました。とにかく夜まで保母が幼児と一緒に

に居るなどといふことは普通の場合にはあまりないことであります、それ故保母の方から言ふと幼児に對する理解を深めたのであります。今までは取り柄のない、棄て、了ひたいやうに思へた幼児が親密さが産んでくれた愛によつて十分に理解されるやうになりました。

私は昨年のやうな試みを聯合で行ふことは不賛成であります、設備を十分にして各園が別々に行ふことには賛成であります。差當りの策としては慈善會あたりが主催して下さつて各園の幼児を十日目位づつで更代させて下さつたならばよろしくらうかと思ひます。

私共が八幡町に滞在してゐたことは八幡町の人に對して一つの實物教訓を與へてゐたやうなことになるはしなかつたかと思ひます。夜なども先生が二手に分れて、一組の先生は子供を連れて遊んで居り、他の一組の先生は家に残つて寢支度をなされるのであります。子供を育てるものは必ず

彼處に行つて見よといふやうにして町の人々は私達のまはりに集つて來ました、而してその人々は

「何んともア、よく世話をすることだらう」と言つて賞讃の言葉を惜みませんでした。兎に角私達の行動は噂の元となつてゐたのであります。それ故町の人々も同情を寄せていろいろ便宜を計つてくれました。子守さんが自分のお小遣の二錢を持つて來て、何かの足しに使つてくれなぞと言つたこともありました。

朝は先づ起きた子から順々に含嗽をさせてやります、これも私達の預つてゐる子供には珍らしいことなのでありますから、一々手傳つて齒を磨かせたり、うがひをさせたりしなければならぬのであります。皆が顔を洗つて了ふと朝御飯前に散歩をします。大抵は海へ行きますが、時によると海まで行かずに、その途中にあるお宮でとまつて了ふこともあります、このお宮は公園になつて居りまして、随分大きな木が澤山あります、それに

うれしいことには境内全體が砂地であることでもあります。

一日の内に一度は必ず海へ行きました。裸體になつて泳ぐこともあります、干潮の時は遠く沖の方まで歩いて行つて淺蜷を取つたりしたこともあります。始めの内は晝寢をしましたが夜寢つきがわるくなつて困りますので中止しました。朝早く起き、夜早く寝ることにして、晝寢のしたくなる時分には戸外へ出て涼しいところで遊ぶやうに致しました。湯は每晚入りました。夕食は六時頃でそれを濟ませて了ふとしばらく宿の前で遊んで、それから寢ました。

十五日の間には多少飽きもしますので町の小学校の運動場を拜借して遊んだり、教室やオルガンまでもお借り申して、久振で東京の園に居る時のやうな心持になつて遊戯をしたり、歌をうたつたりしました。お宮の砂地の境内で裸足になつて朝の會集を行つたことはいまだに忘られない思ひ出

として残つて居ります。各園の先生が代り代りに全體の幼兒を相手にしてお話をなさいますので、このことは幼兒のために珍らしくもあり、先生のために新しい經驗でもありました。舟へ乗つて遊びに行つたこともあり、畑の中をうねりうねつて散歩したこともあり、本店（私達の宿つてゐた宿屋の本店）のお客様もいろ／＼親切にして下さいました。幼兒の或者は本店に泊つてゐる坊ちやんに連れられて特別に舟遊びをしたものなぞもあります。何としても、あの大きな自然の中に置かれた時には誰も彼も悦びの色に充ち満ちて居りました。（文責在記者）

次に掲ぐるは徳永女史の執筆にかゝる「滯幡日記」の一部なり。

十一日〔第二日〕晴天

手早く仕度しつ。湯呑と楊子と鹽とを用意して腰かけを二三脚に洗面器は入浴用の桶を持ち出して五ツ許り。準備の出來た頃はどの蚊帳の中も大分覺めた子の賑やかさ、あたいは誰ちやんのそばに居たのに、こんな所に居た。先生誰ちやんがあたいのお腹の上

に足をのつたんです」などとそれでも唯一人泣きむづかる者もなくて寢坊の子もお友達にゆり起されてパツチリ覺めてはいつもとちがつた周圍にびつくりするひまもなく楽しい現在を想起して「また海に行くんだね」などとさげふ。幸に粗相した者は一人もなくて、氣づかつた第一夜は無事に過ぎた。生れて初めての楊子つかひ一人／＼教へられて手拭かた手におぼつかない顔洗ひ其一段もすんで、豫定の通り一同海にゆく。

きのふに引きかへ潮がすつかり引いて居て、子供等には一層の興味、まづ小蟹を見出した彼等の喜びはどんなであつたか。つきぬ興味をあとにのこして朝飯にとかへつてきたのは八時頃。お豆腐の味噌汁におつけもの、お給仕の先生のいそがしさ。

おひるはおさかなととうなすのにつけ、比護さん餘り小量なるに氣をもまる、ひる寢の子等三時頃より眼覺めた者から入浴、流石につかれが出たと見え夕方の方の海行は見合した方よろしきをおもはせられて、羽仁氏よりの「子供の友」(繪本)などに夕食時までを過す。

六時すぎ夕食をすまして、宿まへの廣場に遊戯などす、近傍の人々參觀者山の如し、八時半きのふのやうに就寢せしむる迄あとへ／＼の人、引きもきらず。

感化責任の重きを覺ゆ。

十二日〔第三日〕晴、時々くもる、

記事略。たゞ夕方雨の爲海行の豫定くづされ、相撲などす、佐藤先生のとんぼつりの話一同興をひいて、パツタとりの榮公相づちうつては説明などす、

八時就寢晝寢のたたりか中々寝つかず。

會議

- 一、昨日よりも大分秩序たちすべてに餘裕を覺ゆ
- 一、晝寢を廢して夜寢を成るべく早くし、會議の時を早めて、先生各自もつと睡眠時を造ることに注意すること
- 一、朝の集會を食前公園にて行ひ深呼吸をさせること
- 一、雨の日の日課について

朝室内にて集會、お晝まで繪本、鉛筆畫等各自にもたせ

午後は學校を借りること

一、訓練上もう少し積極方法をとるべくまづ「お早う」とおやすみなさいの挨拶を岡先生を家長としてさせること

一體に各園平常のお辭儀についての主義習慣などを問題として

思ふさま相語る

十三日(四日)曇

おばさん幼稚園

岸和田 佐藤 ます

子供等起床いつもより遅し

お早うの集り七時すぎ室内にて古内氏リーダー、岡先生お早う皆さんお早う歌で起きることから遊ぶまでの順序をお掃除から洗濯まで爲たのは子供等にとつて非常な興味であつたらしい今迄どうしても同化しなかつた王子の子供等もひき入れられてしまつた大成功

食後病兒を診て頂いて眠るわりの者お腹の冷えてゐる者をはこし海にゆく、貝拾ひにかなり遠方まで出かけた連中、お晝頃にはあさり、えび、かになど澤山のえものをもつて勇んで歸つて来た

晝食後、晝寢の時を面白く遊戯にすゝし三時より海行。午前豫告の船一艘を浮べられて子供等の歡喜言語に絶す

お晝頃原先生御來訪、お菓子をおみやに夕方お歸りになる

二葉の留守番から子供等の留守宅訪問の様子を知らせて来た

南海の邊りに、工業地として知られた、可成賑かな町があります。舊幕時代には、さる大名の城

下でありまして、その城の天主閣こそ天火とやらに罹つて今は其跡形もありませんが、内壕、外壕